

「めざす子ども像」から構想する授業づくりに関する教員研修について — 中学校社会科の授業づくりを例に —

義務教育研修課 主任指導主事兼課長 藤本 直英
指導主事 岡本 健司
指導主事 廣野 孝朋
指導主事 芦田 直弥

キーワード： 論点整理 「めざす子ども像」 中学校社会科 教員研修

はじめに

令和7年9月25日に報告された中央教育審議会教育課程企画特別部会による「論点整理」では、次期学習指導要領の改訂に向けて、現行の課題と今後の方向性が示された。その中で、「児童生徒や地域の実態を踏まえ、『どのような資質・能力を育成するか』という認識から授業を構想し、単元や題材を設定し、教科書や教材を活用して一コマごとの授業を組み立てるプロセスが十分に機能していない。その結果、『教科書を教える授業』や『本時主義』からの脱却が進んでいない状況にある」とし、今後の方向性としては、「教師が『深い学び』を実現する授業のイメージを掴み取りやすくする」ことが求められている。また、「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会論点整理（令和6年9月）」では、「校内研修や教育委員会の支援等を通じて、単に教科書を教授するのではなく、どのような資質・能力を育成するかという視点から一人一人の教師が教育計画を立てられるようにしていくことが重要」との指摘もなされている。

当総合教育センター義務教育研修課では、学習指導要領に基づき単元や本時の目標を設定し、授業プランを構想する研修を継続的に実施している。具体的には、学習指導要領を基盤として各教科の単元や1時間の授業を設計する研修を、小・中・義務教育学校の年次研修（以下、年次研修には初任者研修、2年次研修、3年次研修、中堅教諭等資質向上研修を含む）において展開している。受講者からは「学習指導要領を基に単元や本時で育成すべき力を具体的にイメージでき、授業の方向性が明確になる」との肯定的な評価が寄せられている。一方で、「学習指導要領の目標と自校の児童生徒の実態を結び付けることが困難」「自校の児童生徒を想定した授業を考える時間が不足」といった課題もみられる。

1 研究の目的

現在、当総合教育センターで行っている研修は、受講者の授業づくりに一定の効果をもたらしていると考えられる。しかし、児童生徒に他の学習や生活の場面でも活用できるような、生きて働く「確かな知識」を身に付けさせるためには、学習指導要領を基盤とするだけでなく、将来を見据えて「子どもたちにどのような力を身に付けさせるのか」というところを起点とし、授業を構想する研修が必要であると考える。

そこで、本研究では、教員が教室の学びと社会とのつながりを想定しながら、児童生徒に身に付けさせる資質・能力を明確化して日々の授業を実践できるよう、「め

「めざす子ども像」を起点とする研修を実施し、そこで得た知見を今後の当総合教育センターの年次研修に生かすことを目的とする。具体的には、社会とのつながりを考えやすい中学校社会科を一例として、「めざす子ども像」から授業構想を考える内容を研修に取り入れることが、教員の意識や授業づくりにどのような変容をもたらすのかを明らかにし、研修をアップデートすることで中学校社会科に関する教員研修の充実を図る。あわせて、他の研修等にも成果を展開し、当総合教育センター内の研修の質的向上をめざしたい。なお、本研究での「めざす子ども像」とは、「第4期ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」等を基に、子どもや地域の実態を踏まえて各学校の学校教育目標や学校経営方針等に示された「めざす生徒像」等を想定するものとする。また、本研究は令和7年度・令和8年度の2年間の研究として実施する。

2 中学校社会科教員（年次研修対象者）の現状と課題

前述したように、当総合教育センターでは学習指導要領に基づき単元や本時の目標を設定し、授業プランを構想する研修を継続的に実施しており、中学校社会科教員の研修においても実施している。今回の研究を始めるにあたり、これまでの研修の効果を確認するために、令和7年度に当総合教育センターで年次研修を受講した中学校社会科教員 52 人を対象に授業実態を把握するためのアンケート調査を実施した。調査の結果、「中学校学習指導要領（平成29年告示）社会編の目標に掲げられている、『課題を追究したり解決したりする活動』を取り入れた授業を実施しているか」の項目について、「実施している」「少し実施している」と回答した教員は約83%であった。その回答理由を自由記述で求めたところ「課題追究・解決型の授業は生徒が主体的に活動し、教員自身も新たな発見がある」「課題を解決する活動を通して問題解決をしていく力を付けることは、これからの社会を生き抜くために不可欠である」などの記述があることから、これまでの研修を通じて中学校学習指導要領に示された目標や、これから求められる資質・能力を意識した指導を心掛けることができる程度できていると考えられる。しかし、「あまり実施できていない」「実施できていない」と回答した理由として、「学習課題の設定や資料選定が難しい」「生徒に多面的・多角的な考察を促すことが困難である」「課題を追究したり解決したりする活動の必要性は認識しているが、具体的な授業イメージが持てない」など、学習指導要領の目標に示された「課題を追究したり解決したりする活動」の重要性については理解し授業に取り入れようとしつつも、学習課題の設定や資料の精選、生徒に多面的・多角的な考察を促す手立て等の具体的な授業イメージを描くことに難しさを感じ、結果的に教科書「を」教える授業から完全に脱却できていないという実態が見えてきた。これらの背景には、「課題を追究・解決する活動を行うこと」自体が目的化し、その活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせたいのかという本来の目的が、必ずしも明確にならないまま授業構想が行われている状況があるのではないかと考えられる。このような現状から、学習指導要領に示された教科の目標を踏まえつつ、各学校が掲げる「めざす子ども像」を起点に生徒に身に付けさせたい力を明確にする研修を実施することが、学習課題の設定や学習活動の在り方等の具体化につながり、教員の日々の実践の充実につながるのではないかと考えた。

3 研究の概要

(1) 研究の流れ

研究は以下のア～オの手順で実施した。

ア 中学校社会科教員対象の年次研修等において、「めざす子ども像」を起点に授業を構想する研修を取り入れる。

イ 研修直後の意識の変容をアンケートを通して把握する。

ウ 研修で学んだ「めざす子ども像」を意識した授業づくりを実践につなげたかを問うアンケートを実施し、研修後の授業づくりにどのような変容が見られたのか、生徒の学びの姿にどのような変容が見られたのかなどを明らかにする。

エ 研修を実践につなげた受講者から具体的な取組についてインタビュー調査を実施し、授業の変容を聞き取るとともに、具体例を収集する。

オ 調査内容をまとめ、令和8年度の研究の見通しを持つ。

ア 「めざす子ども像」を起点に授業を構想する研修について

(ア) 研修の概要

研修の日程及び対象者数は表1のとおりである。なお、当総合教育センターでの研修開催日程を考慮し、初任者研修、2年次研修、(中学校)社会科授業実践講座の中で実施することとした。

表1 研修の日程及び対象者数

	初任者研修	2年次研修	(中学校)社会科授業実践講座
実施日	10月8日(水)	10月10日(金)	11月11日(火)
対象者数	13人	20人	10人

(イ) 研修の具体的な内容

研修は「めざす子ども像」から授業案を構想することを伝えたのち、図1のワークシートに基づいて実施した。はじめに、各学校の学校教育目標や学校経営方針等に示された「めざす子ども像」を確認し、受講者の所属する学校がどのような生徒の育成に重点を置いて教育活動を行っているのかを踏まえて、図1の「①『めざす子ども像』を記入する。」に書き出した。

次に、各校の「めざす子ども像」と社会科で身に付ける力の結びつきを考え、図1の「②中学校社会科で身に付けてほしい力を考える。」に書き出した。その際、中学校学習指導要領とのつながりを考えるように促した。そして、地理的分野・歴史的分野・公民的分野を越えた力の育成を意識することをねらいとし、図1の「中学校社会科で身に付けてほしい力を各分野・各単元のどこで身に付けることができるかを考える。」で、②の力を各分野のどの単元や時間で特に身に付けることができるのかを考えた。

さらに各分野の中から、最も学習計画を考えやすい単元を1つ取り上げ、図1の「③単元で身に付けてほしい力を考える。」に書き出した。そして、図1の「④単元計画を考える。」で計画を立て、その中から授業案を考えやすい時間を取り上げ、図1の「⑤本時の授業内容を考える。」で本時の授業案まで落とし込んだ。ここまでは、個人で考えることとし、研修の後半には受講者同士で授業案を検討する機会を持った。なお、研修時間は2時間とし、本時の授業案完成までの時間は1時間30分を想定した。

「めざす子ども像」から構想する授業づくりワークシート① 記入例

①「めざす子ども像」を記入する。(ひょうご教育創造プラン等を基に、各学校が目標とする「めざす子ども像」)

社会に貢献することができる子

情報を活用することができる子 ・ 仲間と協働できる子
 自己管理ができる子 ・ 自分の個性を発揮できる子
 将来を見通すことができる子 等

②中学校社会科で身に付けてほしい力を考える。(学習指導要領等を基に)

- ・ 社会の課題を解決しようとする力
- ・ **主権者として社会に主体的に参画する力**
- ・ 情報(資料)を分析し、まとめる力
- ・ 世の中を多面的・多角的に考察する力 等

中学校社会科で身に付けてほしい力を各分野・各単元のどこで身に付けることができるかを考える。例) **主権者として社会に主体的に参画する力**

【地理的分野】

- ・ 世界の諸地域、**日本の諸地域(各地域の課題を主体的に考える)**

【歴史的分野】

- ・ 欧米諸国における近代化(市民革命・人権思想)
- ・ これからの日本と世界(国際社会におけるこれからの日本)

【公民的分野】

- ・ 現代社会の見方・考え方(対立と合意) ・ 民主政治と政治参加 等

例) 地理的分野「中国・四国地方」

③単元で身に付けてほしい力を考える。

- ・ 中国・四国地方の地域的特色を理解する力
 - ・ 交通網や通信網の整備が地域に与えた影響を考える力
- **地域の抱える課題(過疎)を主体的に考えようとする力**

④単元計画を考える。

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1時 | 中国・四国地方の自然環境 |
| 2時 | 交通網の整備と人々の生活の変化 |
| 3時 | 瀬戸内海の内海と工業の発展 |
| 4時 | 交通網を生かして発展する農業 |
| 5時 | 人々を呼び寄せる地域の取り組み |
| 6時 | 中国・四国地方の課題(過疎)を解決するための方策を考える。 |

⑤本時の授業内容を考える。(2時 交通網の整備と人々の生活の変化)

図1 研修で使用したワークシート(記入例)

イ 研修後に実施したアンケート調査について

(7) アンケート調査項目

各研修受講直後のアンケートを通して、受講者（43名）の授業づくりに関する意識の変容を見取った。アンケート項目の具体的な内容は表2のとおりである。各質問項目は「ア とても変わった」「イ 少し変わった」「ウ あまり変わらなかった」「エ 変わらなかった」の4件法で実施した。

表2 研修直後のアンケート内容

項目	内 容	
①	「めざす子ども像」から構想する授業づくりの研修を受けて、授業づくりについて意識が変わりましたか。	
②	①で「とても変わった」「少し変わった」と答えた方は、以下の各項目について回答願います。	
	授業内	ア 授業づくり全般について
		1 自校の生徒の実態を踏まえた授業づくり
		2 自校の地域の実態を踏まえた授業づくり
		3 自校の生徒の将来を見据えた授業づくり
		4 社会情勢を意識した授業づくり
		5 他教科とのつながりを意識した授業づくり
		6 社会科の他分野とのつながりを意識した授業づくり
		7 学習指導要領を踏まえた授業づくり
		イ 課題を追究したり解決したりする活動の充実を意識した授業づくりについて
		8 導入時
		・具体的な記述
		9 課題追究時
		・具体的な記述
		10 まとめ、振り返り時
		・具体的な記述
		・その他、授業づくりで意識するようになったことがあれば記入。
		ウ 汎用的な力の育成を意識した授業づくりについて
		11 仲間と協働する力
	12 地域や社会をよりよくするための取組を考え、実行する力	
13 自分の考えを言葉で表す力		
14 自分の成長のために主体的に取り組む力		
15 様々な情報を理解し、選択し、処理する力		
16 原因や課題を発見し追究する力		
・その他、汎用的な力の育成について意識するようになったことがあれば記入。		
授業外	連携	17 他の教員との連携・情報共有の重要性
		18 保護者・地域との連携の重要性
		・その他、授業以外で意識するようになったことがあれば記入。
③	これからの授業で、「めざす子ども像」を構想する授業づくりを実践していこうと意識が変わりましたか。	

(イ) アンケート調査結果について

アンケート項目①の結果を図2に示した。項目①「『めざす子ども像』から構想する授業づくりの研修を受けて、授業づくりについての意識が変わりましたか。」については、「とても変わった」(46.5%)、「少し変わった」(53.5%) (合計 100%) となり、全ての受講者の授業づくりへの意識の変容が見られた。

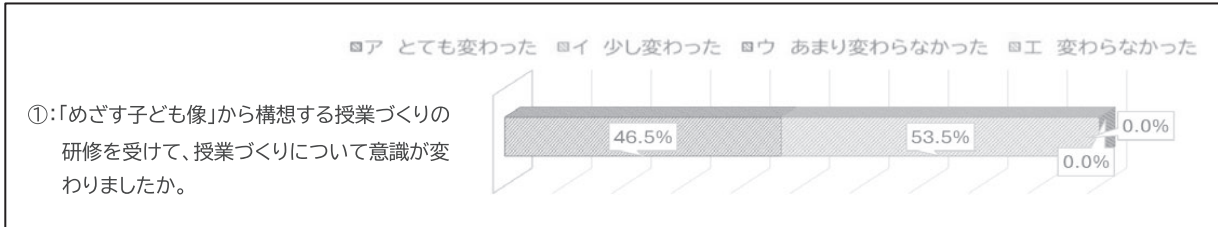


図2 アンケート項目①の結果

アンケート項目②については図3のような結果となった。各項目の具体的な記述等は表3にまとめた。表3の「ア 授業づくり全般について(項目1~7)」は、「1 自校の生徒の実態を踏まえた授業づくり」「3 自校の生徒の将来を見据えた授業づくり」「6 社会科の他分野とのつながりを意識した授業づくり」「7 学習指導要領を踏まえた授業づくり」について変容を意識した受講者の割合が高くなっている。これは、アの具体的な記述にあるように、「めざす子ども像」を意識することで授業のゴールが明確になり、単元を構成する際の方向性が見出せたり、課題設定や問いの質の向上につながると考えたりしたことや、学校教育目標と学習指導要領とのつながりを考えることで、授業の目的に説得力が増すと考えた受講者が多かったためであると考えられる。一方で、「2 自校の地域の実態を踏まえた授業づくり」「4 社会情勢を意識した授業づくり」「5 他教科とのつながりを意識した授業づくり」については割合が相対的に低くなっており、研修の中でこれらの項目にはあまり触れていなかったことが原因の1つであると考えられる。表3の「イ 課題を追究したり解決したりする活動の充実を意識した授業づくりについて(項目8~10)」は、どの項目も割合が高くなっている。これは、イの具体的な記述にあるように、単元導入時の工夫の必要性や教員が講義を行う場面と生徒が協働的に学ぶ場面の配分、発問の工夫について改善点に気付いたり、問題解決型学習の重要性を再認識したりした受講者が多かったためであると考えられる。また、表3の「ウ 汎用的な力の育成を意識した授業づくりについて(項目11~16)」も、どの項目に

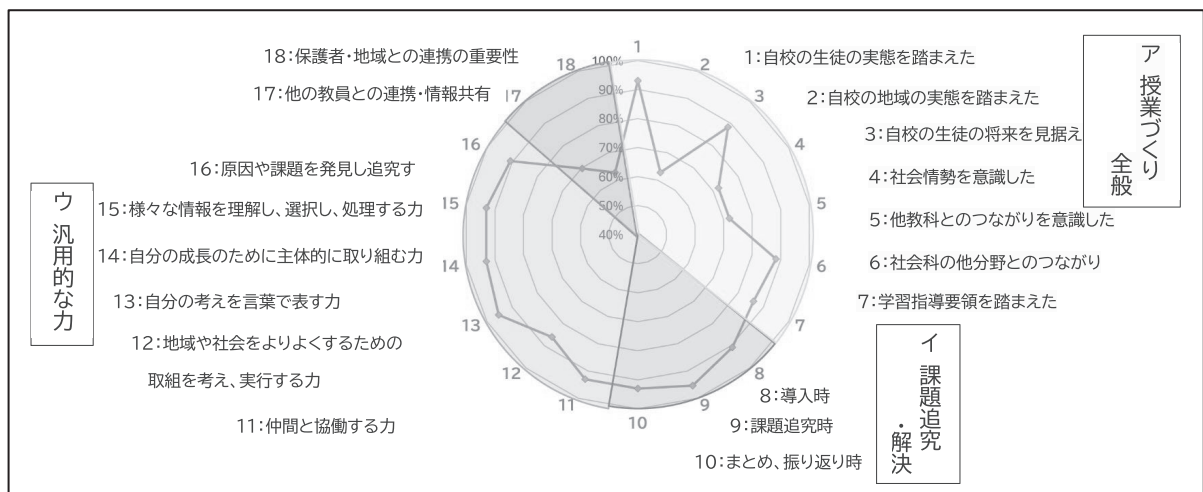


図3 意識が変容した項目の具体

においても割合が高くなっている。ウの具体的な記述にあるように、「めざす子ども像」から構想することで、知識・技能だけではなく、生徒の将来の姿には項目 11～16 のような力も授業で意識する必要があることや「めざす子ども像」から構想することが社会科に限らず、社会とつながる授業づくりにとって必要な視点であることに気付いたためであると考えられる。一方で、「17 他の教員との連携・情報共有の重要性」「18 保護者・地域との連携の重要性」等、授業以外の項目については割合が低くなっている。

表 3 主な具体的な記述

ア 授業づくり全般について（項目 1～7）

項目	1 自校の生徒の実態を踏まえた授業づくり	93.0%
	2 自校の地域の実態を踏まえた授業づくり	62.8%
	3 自校の生徒の将来を見据えた授業づくり	88.4%
	4 社会情勢を意識した授業づくり	72.1%
	5 他教科とのつながりを意識した授業づくり	72.1%
	6 社会科の他分野とのつながりを意識した授業づくり	88.4%
	7 学習指導要領を踏まえた授業づくり	86.0%
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・「めざす子ども像」と社会科に必要な資質・能力は一致している部分が多かった。ゴールがはじめに見えているので、授業構想がしやすかった。 ・単元目標を学校教育目標と照らし合わせて考えることで、課題の設定がより良いものになるのではと感じた。また、授業の目的に説得力が増すと思った。 	

イ 課題を追究したり解決したりする活動の充実を意識した授業づくりについて（項目 8～10）

項目	8 導入時	90.7%
	9 課題追究時	95.3%
	10 まとめ、振り返り時	93.0%
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り、知識をつける場面や協働し活動する場面の配分や協働する際の発問の設定等の見直しができた。 ・「めざす子ども像」や学習指導要領を基に、1つの授業を考える中で、授業の導入を工夫することの大切さを感じた。 ・ゴールを設定することで、スタート位置の重要性が増した。 ・問題解決学習を通じて、課題解決力を身に付けることができると感じた。 	

ウ 汎用的な力の育成を意識した授業づくりについて（項目 11～16）

項目	11 仲間と協働する力	93.0%
	12 地域や社会をよりよくするための取組を考え、実行する力	86.0%
	13 自分の考えを言葉で表す力	95.3%
	14 自分の成長のために主体的に取り組む力	93.0%
	15 様々な情報を理解し、選択し、処理する力	93.0%
	16 原因や課題を発見し追究する力	90.7%
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は知識・技能の観点から授業構成を考えていることが多かったが、「めざす子ども像」から構想することで、日頃関わっている生徒の顔を思い浮かべながら、将来どのような姿で活躍してほしいかをイメージして授業を考えることができた。「社会科で何を学ばせたいか」の説得力が「めざす子ども像」から考えることで明確になった。 ・社会科に限らず、設定されたゴールに対して社会科としてどのようにアプローチしていくかという視点で考えることができたのが新鮮だった。将来社会に出て活躍できる人材をどう育てるのかという視点が大切だと気付かされた。 	

(イ) アンケート調査結果について

アンケートの結果、「実践につながったか。」の回答は、**図5**のとおりとなった。「つながった」(37.0%)、「少しつながった」(40.7%)と回答した受講者は77.7%、「あまりつながらなかった」(11.1%)、「つながらなかった」(11.1%)と回答した受講者は22.2%となった。

結果から、研修後の実践について多くの教員は「めざす子ども像」を意識した授業改善に取り組み、生徒の主体性を大切にする方向へ授業の展開や授業観を転換したことがうかがえた。具体的には、**表5**の「①

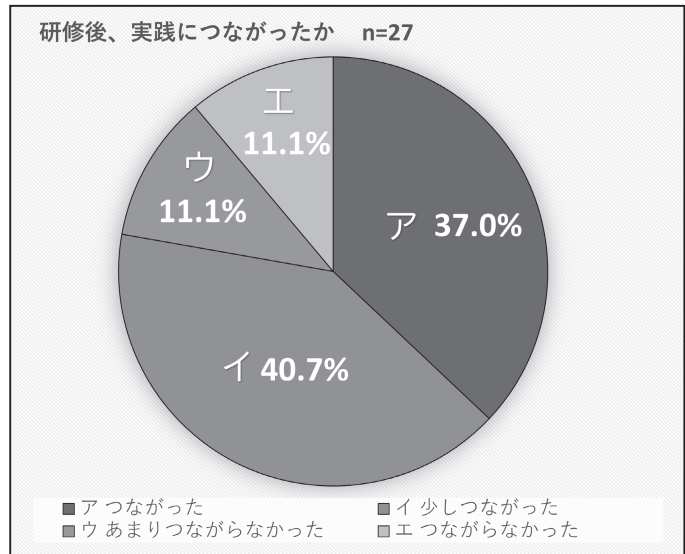


図5 研修後の実践へのつながり

今までの授業とどのような違い(変化)があったのか。(何を変えたのか)」の記述から、正解を1つに限定しない問いを考えたり、仮説を立てさせる活動に難しさを感じつつも、そこにこそ生徒の主体性を育む可能性があることを感じて取り入れたり、ゴールを明確化した一貫性ある授業構成へと変化させたりしたことがうかがえた。その際、これまで以上にグループワークを増やし、生徒同士の関わりを深める場面を設定するなど意識の変化が見られた。また、**表5**の「②『導入』『課題追究時』『振り返り』」のどの場面で違い(変化)があったのか。」の記述からは、チャットによる書き込みで意見を発表し共有するだけでなく、資料を様々な視点から考えさせたり、立場の違いを踏まえた話し合いの場面を取り入れることで互いの考えを深めさせたりするなど、プリントやスライドを中心とした授業から、対話を重視した授業を実施することで学びを深めていこうとしたことがうかがえた。こうした実践によって、**表5**の「④実践した結果、どのような手ごたえを感じているか。(子どもの変容等)」については、生徒の表現力が向上したことや学びの質の深まったこと、自立性の向上を感じている内容の記述が多いことから、教員が授業の展開を変えていくことが生徒の授業に取り組む態度や姿勢の変容、また学びの質の向上につながることを実感できたことがうかがえた。また、**表5**の「⑤今後どのような授業を実践しようと考えているか。」の記述からは、より具体的な視点や手立てを取り入れたり、現状の授業展開を改善したりするなど、新たな課題意識をもって次の実践につなげようとしていることがうかがえた。一方、**表5**の「⑥なぜ実践につながらなかったのか。」の記述からは、実践が困難であった要因として、時間的な制約、学校教育目標と授業とを結びつける難しさ、生徒の多様な実態への対応が困難であることが挙げられた。今後の研修改善策としては、**表5**の「⑦研修にどのような内容が加われば、実践につながると考えるか。」の記述から、授業設計演習の時間確保や短時間で構想可能なテンプレートの活用、「めざす子ども像」を複数単元で構想するワークの導入等が挙げられている。また、「どの授業にも応用できそう」など研修内容の汎用性についての記述もあり、他教科の研修においても「めざす子ども像」から構想する内容を取り入れることで、授業づくりへの理解がより深まる可能性も見えてきた。

表5 研修後の実践へのつながりを問うアンケート結果（主な記述を抜粋）

項目	① 今までの授業とどのような違い（変化）があったのか。（何を変えたのか）
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に自分なりの仮説や予想を立てさせるようにした。 ・1つの正解ではなく、多様な立場から考えることを促した。 ・ゴールを明確に設定し、授業の軸がぶれない構成にした。 ・教科書の重要語句を網羅するのではなく、概念的知識に焦点を当てて組み立てる。 ・プリントやパワーポイント中心から「対話」へと重点を移した。 ・グループワークや意見交換を増やし、互いに「伝える力」を育てる場を設定した。 ・発表の場面を工夫し、自信を持たせるために机間指導を活用して指名した。 ・意見が出にくい生徒にも発表の機会を保障した。

項目	② 「導入」「課題追究時」「振り返り」のどの場面で違い（変化）があったのか。
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでチャットに書き込みをさせていたが、話し合いを多く入れた。 ・導入でゴールを予告し、課題追究時には資料を様々な視点から考えさせたり、役割演技等を取り入れることで立場の違いを考えさせたりすることで、社会的事象を多面的・多角的に考えさせた。 ・振り返りは「本時の目標（ねらい）に迫っているか」を見取れるような内容に変更した。 ・資料を基に自分で考える習慣を育成した。単元の振り返りで「自分ならどうするか」を問うようにした。

項目	③ ②について、具体的にどのような実践をしたのか。
歴史的分野「蒙古襲来」	<ul style="list-style-type: none"> ・元寇について、鎌倉幕府の立場から見るだけではなく、元の事情や借上の立場を想像させるなど、多面的・多角的な視点で考える活動を取り入れた。
地理的分野「生活と宗教」	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解のために、日本的な価値観との比較を通じて多様な文化背景を学ぶ活動を取り入れた。

項目	④ 実践した結果、どのような手ごたえを感じているか。（子どもの変容等）
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンに説得力が増し、自信を持って発表できる生徒が増えている。 ・発表して「先生に伝える」から「友人に伝える」へと意識が変化し、言葉の選び方や情報を整理する力が高まっている。 ・教科書を読み取ることで文章力が少しずつ育ち、自分の言葉で書けるようになってきた。 ・「なるほど」「確かにそうともいえる」など、相互理解を深める発言が増加した。 ・資料を基に考える活動で、自分なりの答えを導き出す経験が増えた。 ・振り返りで授業のめあてに迫る記述が増え、学びの質が高まっている。 ・授業に一貫性が出て、子どもたちが見通しを持ちやすくなった。 ・集中して傾く姿や「だから○○なのか」という理解の言葉が増えた。 ・AI要約のコピーから、自分の考えを表現するなど、自立性が高まっている。

項目	⑤ 今後どのような授業を実践しようと考えているか。
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・「独占と競争や労働者の権利」の学習で、生徒に同じ商品を売るライバル会社を設定させ、価格競争や労働条件を比較させる。 ・歴史人物の意思決定をロールプレイさせる。 ・ただの人物紹介ではなく、もしあなたがその立場ならどう決断するかを問う。 ・背景を考える資料を与え、複数の選択肢から議論させる。

項目	⑥ なぜ実践につながらなかったのか。
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を授業に落とし込む余裕がない。 ・研修で目標を確認できても、学校に戻ると実践の準備時間が確保できない。 ・日々の業務に追われ、研修内容を生かす余裕がない。 ・学校教育目標が大きすぎて、1時間の授業に具体的に反映するのが難しい。 ・社会科授業へのつなげ方のイメージが持ちにくい。 ・生徒の能力・考え方・特性・体調・姿勢・雰囲気バラバラで学校教育目標とのつながりを意識しにくい。 ・誰に合わせて授業を設計すべきか迷う。 ・グループワークでは「できる子」に負担が集中し、不公平感が生じてしまう。

項目	⑦ 研修にどのような内容が加われば、実践につながると考えるか。
具体的な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容のわかりやすさは評価できるが、実践には授業準備の時間の確保が不可欠である。 ・学校業務の多忙さから、研修内で授業設計まで取り組める時間があると効果的だ。 ・時間的余裕があればよい。 ・研修での「授業組み立て演習」の際には、実際の教材や単元を題材にして授業を考える時間を十分にとってほしい。 ・学校現場で時間が限られることを前提に、短時間で授業構想を形にするテンプレートを活用した演習にする。 ・「めざす子ども像」を複数の単元で描き出す演習を研修に取り入れることで、実践につながる。(研修内容を学校に持ち帰り実践に反映しやすい) ・教科や単元を限定せず、複数の教科や単元で「めざす子ども像」を構想することで、理解が広がるような気がする。どの授業にも応用できそう。

エ 実践につなげた受講者に対する具体的な取組についてのインタビュー調査及び実践例について

(7) 実践事例Ⅰ（受講者Aへのインタビューから）

表4のアンケートの結果から、「実践につながった」と回答した受講者を2名抽出し、研修後の変容についてインタビュー調査を実施した。表6は受講者Aについて、表7は受講者Bについてインタビューで聞き取ったことをまとめたものである。

受講者Aは、初任者（講師歴3年）であり、Aの所属校の「めざす子ども像」は、「多様な価値観を認め、自他の人権を守れる生徒」である。Aは、この「めざす子ども像」から多様な価値観を認めるためには、相手の価値観を知るだけでなく、なぜそのような価値観を持つに至ったのかを理解する必要があるとあり、社会科においては、知識として社会的事象を知るだけでなく、その背景を理解する力を身に付けることが重要だと考え、自身の授業を見直した。

その結果、これまでは、図6のように知識を身に付けることに重きを置いていたが、研修後は図7のように社会的事象の背景に迫る授業展開を構想するようになった。具体的には、授業の軸となる学習課題を設定したり、生徒が背景に迫りやすい資料を提示したりするなどの工夫をした。また、授業の中で対話を取り入れ、仲間の考え方に触れることで多面的・多角的な視点に気付かせる活動を取り入れるようになった。さらに、図8のように単元や1時間の学習を通して、学びが深まったのかどうかを生徒自身が実感でき、かつ教員が学びの深まりを見取ることができるように、ワークシートに「見通し」と「振り返り」を書かせる活動を取り入れた。

このような授業改善を図ったことで、Aは協働的に学ぶ活動を取り入れる意義や対話の必要性を実感するようになった。加えて、生徒の「見通し」と「振り返り」から学びの深まりを見取ることができるようになり、深まりがあまり見られない場合は発問や授業展開を変えるなど、自身の授業を見直し、更なる授業改善を行おうとする姿勢も見られるようになった。その結果、指導教員から「子どもたちの学びの深まりが見られる授業になってきた」という評価を得ている。また、A自身も「めざす子ども像」から構想する授業づくりに一定の成果を感じていることがうかがえた。

表6 受講者Aインタビュー内容（実践事例Ⅰ）

年次	初任者（講師歴3年）	
「めざす子ども像」	多様な価値観を認め、自他の人権を守れる生徒	
社会科で身に付ける力	多様性を「知る」だけでなく、多様性の背景にあるものを「理解する」ことが「多様性を認める」ことにつながるのではないか。そのために、社会科では、社会的事象の背景を理解する力を身に付ける必要があると考えた。	
授業に関する変容	受講前	受講後
	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとチョーク&トークの知識注入型授業で一方向的な授業展開となっていた。 ・授業で使用するワークシートは穴埋め形式。知識を問うものが中心だった。 ・学習課題は教科書の単元と本時の問いをそのまま使用していた。 ・教科書の資料をそのまま使用していた。 ・対話をする活動はできていたが、意図が明確ではなく、対話の深まりが感じられなかった。（指導教員からも学びの深まりについて指摘を受けた。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語を押さえるだけではなく、社会的事象の背景に迫る授業を考えた。 ・社会的事象の背景にまで迫っていたのを見取るために、ワークシートに単元ごと、1時間ごとの「見通し」と「振り返り」を記入するように変えた。 ・子どもたちの実態に合わせて、背景に迫りやすい学習課題にアレンジするなど工夫するようになった。 ・子どもたちが考えを深めやすいように、教科書の資料に加えて、自作の資料を準備するようになった。 ・見方や考え方を広げるために対話を取り入れるなど、明確な意図をもって対話をさせるようになった。
授業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・協働的に学ぶ活動を取り入れる意義や対話の必要性が実感できるようになった。 ・「見通し」と「振り返り」の記述や発言から、子どもたちの学びの深まりを見取ることができるようになってきた。深まりがあまり見られない場合は、発問や授業展開を変える、自身の授業を見つめ直すなど、授業改善にもつながった。 ・指導教員から、「子どもたちの学びの深まりが見られる授業になってきた」などの言葉もらった。 	
子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りで記述する内容が、社会的事象の背景まで迫っている生徒が増えた。 ・対話の中で、「なるほど、自分と同じ考えだ」「それはどういうこと？」など、認めたり、深めたりする様子が見られるようになった。 	

歴史授業プリント⑤ 1年組 番号前

めあて ギリシャとローマではどのような政治が展開されたのかを理解しよう

Step1 ギリシャで都市国家(ポリス)が誕生した流れをまとめよう

- ・特に____の降水量が少なく____は比較的降水量が多い→____帯の____気候
- ・山が多く、土地も石灰岩が多い→____には向いておらず、王による広い領域の支配はなかった

その結果、小さな都市国家(____)が各地に生まれた。
その中で有力なポリスとなったのは、____とスパルタだった。

Step2 ギリシャで民主政が完成した流れをまとめよう

- ・ギリシャでは元々貴族が政治を独占していた。*戦争に参加した人だけが政治に参加できた。
- ・大帝国だった____との戦いで武器をもたない市民でも活躍し、政治に参加できた。
- ・その結果、すべての成人男子の市民が出席する____を中心とした____が誕生した。
- ・____が発達した結果、____が発展し、____やプラトンなどが活躍した。

Step3 民主政とはどのような政治だろうか、またギリシャの民主政の問題点は何か

民主政とは、

図6 研修前のワークシート

※図6では一問一答式の穴埋め問題が中心となっていたが、図7では資料の読み取りや背景を考える内容が増えている。

歴史授業プリント⑥ 教P118~119 1年組 番号前

めあて 豊臣秀吉がどのような政策を行ったかをまとめることができる

Step1 全国統一の仕組みづくり
秀吉が刀狩令を出した目的を考えよう

刀狩令(1588年)

秀吉は、農民のほかにどこから武器を取り上げたのだろう
教科書P115から探してみよう

信長と秀吉の検地の違いについてまとめよう

	検地の名前	検地の内容
信長	指出検地	農民達が自分で耕している土地の大きさを申告する
秀吉		地域によって異なっていた() や物差しなどを統一し、正確に測量した

検地を行うにあたり、なぜ秀吉は物差しや升を統一したのだろうか

☆秀吉は刀狩令と検地を徹底的に行うことによって()を推し進めた
→このことによって下の者が上のものを倒す()を防止し、
()時代は終わることとなった。

図7 研修後のワークシート

学習の見通し・振り返りシート

歴史的分野 第2章 第4節 展開する天皇・貴族の政治 年組番号

第4節の問い：中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか。

節の見通し

(1) 「節の問い」について、学んでみたいことや、疑問に思ったことを自分の言葉で表そう。

遣唐使が廃止されたことにより、中国の文化を取り入れなくなり、日本独自の文化が貴族たちの間で生まれたと思う。

(2) 解決のために、何が分かればよいか、どのようなことを調べればよいかなど、見通しを立てよう。

日本の変化 → 日本独自の文化 → 貴族がどのようにして権力をいじり、政治を動かしていたか。

学習前の予想・学習後の振り返り

本時の項目と学習課題	学習前の予想	学習後の振り返り
1. 権力を握った貴族たち 藤原氏はどのようにして権力をにぎっていったのだろうか	自分の親を天皇の后として、政治の権力をにぎり、力を広げていると思う。	摂関政治は自分の親を天皇の后とし、天皇が幼い頃には摂政。成人後は関白として政治権力をにぎった。荘園を増やすことで、大きな財産を手に入れた。
2. 唐風から日本風へ変わる文化 平安時代には流行した国風文化とはどのような文化だろうか	かた文字や貴族の住居等へのツリが日本で誕生したと思う。	遣唐使が廃止されたことにより、日本の独自の国風文化が生まれた。1. 和の文字作品(和歌、和歌集)が生まれた。かた文字、和歌集、和歌集、和歌集

節の振り返り

中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか。

奈良時代後期 → 政治に力を持つようになり、政治に参加するようになった。
平安時代 → 都を平安京へ移す(794年) → 藤原氏が権力をにぎる → 藤原氏の政治 → 藤原氏の政治 → 藤原氏の政治

(2) この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えよう。

平安時代で誕生した文化や政治は、鎌倉時代になっても変化するか気がなります。そしてまた都が移るのかも考えたいです。

自分のことばでよく振り返りができています!

図8 研修後のワークシート

(イ) 実践事例Ⅱ（受講者Bへのインタビューから）

受講者Bは、2年次研修受講者（講師歴3年）であり、Bの所属校の「めざす子ども像」は、「創造性が豊かで、意欲的に学び続ける生徒」である。この学校は「めざす子ども像」を実現するために具体的な力を設定し、「聴く力」「伝える力」「正しく判断し選択する力」の育成を柱として取り組んでいる。Bはこの3つの力を社会科でも育むことを意識して、自身の授業を見直した。これまでも対話に重きを置いて授業を展開していたが、「対話をさせないといけないからする」というようにその意義をあまり感じていなかったため、対話のねらいが曖昧であった。また、授業の展開について、これまでも「学習課題の提示→仮説→検証→まとめ」という流れで実施してきたが、この流れで学びが深まっているのかを見取ることが難しかった。

しかし、研修後には、特に「聴く力」や「伝える力」を意識することで、対話の中で自分と異なる意見に触れることが社会的事象に対する生徒の多面的・多角的な理解につながると気づき、対話する活動の意義を見出すことができた。また、導入の場面で、既習事項から「まずどう思うか」を考えて話し合わせたり記述させたりする活動を取り入れ、まとめの「振り返り」の場面で、本時で学習したことを対話の中で聞いたり伝えたりすることで学びの深まりを実感させることができると考えるようになった。

さらに、これまでも単元の終わりに発展的な内容を扱った授業を実施したいと考えていたが、教科書の内容を越える授業は実施する根拠が薄いと感じていた。しかし、「めざす子ども像」を根拠にすれば、単元で学んだことを基に発展的な学習活動を取り入れる意義が明確になり、「こんな授業をやってみたい」と授業構想がどんどん湧いてくるなど、授業改善の意欲が高まった。

結果として、学習指導要領に示されている社会科の目標の「課題を追究したり解決したりする活動」が具体的にイメージできるようになるとともに、これまで続けてきた授業スタイルが社会科のねらいに迫るものであり、間違っていないという自信がついたことから、授業づくりに手ごたえを感じることもできた。また、授業のねらいを明確にもつことで、的を射た問いの投げかけにつながり、結果として生徒同士の対話の中身も深まった。こうしたことから、「めざす子ども像」を意識することの必要性を実感できるようになったことがうかがえた。



研修受講後の授業の様子（生徒同士の対話の中身が深まった発表・交流の様子）

表7 受講者Bインタビュー内容（実践事例Ⅱ）

年次	2年次（講師歴3年）	
「めざす子ども像」	創造性が豊かで、意欲的に学び続ける生徒	
社会科で身に付ける力	意欲的に学び続ける生徒を育てるために、学校のキャリア教育を「聴く力」「伝える力」「正しく判断し選択する力」を柱として取り組んでいる。この3つの力を社会科でも育むことを意識した。	
授業に関する変容	受講前	受講後
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れは、これまでも「学習課題の提示→仮説→検証→まとめ」という流れだったがこの流れでよいのか不安があった。 ・これまでも対話に重きを置いて授業展開していたが、必要性をあまり感じていなかった。（対話をさせないといけないからする）また、対話のねらいが曖昧であった。 ・単元の終わりに発展的な内容を扱った授業を実施したいが、教科書の内容を越えることはあまり必要ない（やる根拠が薄い）と感じていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「単元や1時間の授業で何を考えさせたいのか？」ということをより深く考えるようになった。 ・導入の場面で、既習事項から「まずどう思うか」を考えて話合わせたり記述させたりする活動を取り入れ、まとめの「振り返り」との比較から思考の深まりや変容を見取るようになった。 ・「聴く力」「伝える力」を意識して、自分と異なる意見に触れることで気付いた視点や考えを根拠に発言をするなど、多面的・多角的に物事を考え、学びを深めている。 ・授業の流れは変わっていないが、社会科の目標を達成するためには「学習課題の提示→仮説→検証→まとめ」という学習活動が適していると感じた。 ・単元の終わりに、単元で学んだことを基に発展的な学習活動を取り入れた。（公民的分野で実施） 学校教育目標と照らし合わせることで、発展的な学習を実施する根拠が明確になり、「こんな授業をやりたい」と授業構想がどんどん湧いてきた。
授業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の目標の「課題を追究したり解決したりする活動を通して…」という部分が自分の中で具体的にイメージできるようになった。あわせて、これまでの授業が社会科のねらいに迫るものであり、間違っていないという自信がいった。 	
子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> ・いままで、明確なねらいを持たずに問いを投げかけていた。子どもたちもあまり分かっていなかった感じがあった。しかし、こちらが授業のねらいを明確にもつことで、的を射た問いの投げかけができるようになった。その結果、子ども同士が発問をすぐに理解し、対話を始めるなどの変化があった。話し合いの中身も深まった。 ・教科書の言葉を写すだけの子が、振り返りを自分の言葉で書くようになった。 	

第2節 企業と生産
4 働くことの意義と労働者の権利 教科書p138~139

対話したところ

めあて より良い生活を実現するため、労働者の権利は法律によってどのように保障されているだろうか。

◎働くことの意義
話そう 将来、何を重視して仕事を選択したいですか？

◎労働者の権利
◇企業にとって労働者は必要不可欠!!
→一方で、できるだけ安い賃金で長時間働いてもらえれば企業にとっては都合が良い。

労働者の権利が守られない。
(1)労働者の権利を保障している3つの法律についてまとめよう。

	()を結成する権利を認めている。
--	-------------------

(2)どうして労働者の権利に関する法律が整備されているのか。
憲法との関わりを考えよう。

(3)資料3より、労働組合の組織状況からみられる課題を考えよう。

資料1 若者の働く理由
はたらき理由ランキングTOP10

順位	理由	割合
1位	お金のため：生きていくため	56.3
2位	お金のため：趣味や嗜好品を豊かにしたい	19.4
3位	お金のため：家族を支えるため	18.1
4位	やりたい/好きな仕事から	3.5
5位	社会人として働くのは当然の責任と義務	2.7
6位	自分自身の成長のため	2.3
7位	社会に貢献する為	2.1
8位	社会の役に立ちたい	1.9
9位	世襲体が災いなるので	1.5
10位	ほかのやりたいことがその職 / 夢をかなえるため	1.0

資料2 労働基準法の内容

項目	内容
労働条件	労働条件の決定では、労働者と使用者は対等(2条)
賃金	男女同一賃金の原則(4条)
労働時間・休日	労働時間は週40時間、1日8時間以内(32条) 毎週少なくとも1日の休日(35条)
雇止め	15歳未満の児童の使用禁止(56条)
産前・産後	産前6週間(請求があった場合)、産後8週間は働かせてはならない(65条) 産後1年間は1日2回各30分以上育児時間を請求できる(67条)

資料3 労働組合の組織率の推移

資料4 外国人労働者の賃金格差

◎働く機会の提供
◇すべての人が生きがいをもって働けるように、性別・年齢・障害の有無を問わず、働く機会を提供することが重要。

女性の雇用	1986年(★)の制度
高齢者の雇用	希望者全員が()歳まで働ける制度を整える義務。
障害のある人の雇用	一定の従業員数以上の会社に一定の割合以上雇用することを義務付ける。

近年…()の雇用も増えている。
*高い専門知識や価値観を持っている外国人の雇用が広がっている。
*人手不足の介護・建設・農業などの分野でも受け入れ体制の整備。

しかし! 外国人であることだけを理由に労働条件で不利な扱いを受けてしまう問題も。

図9 研修前のワークシート

第2節 企業と生産
6 企業の社会的責任 教科書p142~143

めあて 現代の社会において、企業にはどのような責任が求められるのだろうか。

◇()…企業は利潤の追求だけでなく、社会の一員として積極的に果たすべき役割が期待されている。

①これまでの学習を振り返り、次の①~⑥に対する企業の社会的責任についてまとめよう。
これらの社会的責任は「持続可能な開発目標(SDGs)」のどの項目に当てはまるか、番号で答えよう。

①消費者	②従業員
SDGs ()	SDGs ()
③株主・投資家	④地域社会
SDGs ()	SDGs ()
⑤国際社会	社会的責任と株式会社の経営にはどのようなつながりがあるのだろうか。
SDGs ()	

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

②「あなたが応援したい企業 No.1を決めよう!」
(1)企業の社会的責任(CSR)を調べよう。
(2)調べた企業の良いところ、共感したところなどをまとめ、スライド(1pでOK)を作成しよう。

図10 研修後のワークシート

※図9と比べ、図10は授業の流れに沿って教科書等を参考に穴埋めをする箇所を減らし、社会的事象について多面的・多角的な視点で調べたり、考えたりすることができるようにワークシートを改善した。

4 考察

(1) 「めざす子ども像」から構想する授業づくりに関する受講者の新たな気付き

上記の結果から、「めざす子ども像」を起点とした授業を構想する研修を実施することは、教員の授業づくりに新たな視点をもたらし、授業づくりについての気付きを与えることにつながると考えられる。具体的には、単元や本時の目標・学習課題の明確化、課題追究の際に提示する資料の精選等の授業内容の改善につながる気付きと、課題を追究する中で思考したことを表現したり相手の考えと自身の考えを交流させることによって思考を深めたりするなどの汎用的な力を育むための場の設定に関する気付きがあったといえる。

授業内容の改善につながる気付きを得た教員は、授業が社会に出た際の生きて働く「確かな知識」の習得につながることを意識した授業展開を考えようとする傾向が見られた。また、汎用的な力を育むための場の設定に関する気付きを得た教員は、社会科に限らず、「めざす子ども像」から構想することが自らの教育活動の根拠になると考え、他教科を指導する際にも必要な視点であるという教科横断的な資質・能力の育成まで考えようとする傾向が見られた。

このように、「めざす子ども像」＝「どのような子どもを育てるのか」「子どもたちにどのような力を付けるのか」に意識を向け、そこから教育活動を考えることは、授業の充実を図るために非常に重要な要素であることが、今回の研究から明らかとなった。

(2) 生きて働く「確かな知識」を習得させることをめざした授業づくりに資する研修に向けて

これまで当総合教育センターの研修では、学習指導要領に基づき、単元や本時の学習目標や展開を考える研修を実施してきた。しかし本研究を通して、学習指導要領を根拠としつつも、同時に「めざす子ども像」を起点として、単元や本時の授業と往還しながら考えることにより、教員自身が生きて働く「確かな知識」の習得をめざした授業づくりへの意識が高まることが明らかになった。

一方、受講者からは、研修内容について「難しくイメージしにくい。描きにくい。」などの声が聞かれ、「めざす子ども像」と授業をつなぐ際により丁寧な演習を行う必要があることが浮き彫りとなった。また、「めざす子ども像」から授業を構想することが大切な視点であることは理解しつつも、日常の中でそこまで考える時間や余裕がないという受講者も一定数見られた。そのため、「めざす子ども像」から構想する授業づくりをイメージしやすくするために、例えば、これまでの実践例を提示するなど、受講者が感じる難しさを克服するような工夫が必要である。同時に、学校で実践しやすくするために、研修中に受講者同士で授業を詳細に構想する時間を確保したり、授業で活用できるワークシート等を作成する内容を盛り込んだりすることにより、受講者の取組への意欲を高める手立てを講じていく必要がある。

5 おわりに

教員が「めざす子ども像」を具体的にイメージして普段の自身の教育活動に結び付けて考えることは、日常の業務の多忙さから難しい現状がある。そのような状況であるからこそ、当総合教育センターにおいては、学校が育てたい子どもの姿を明確に描きつつ、学習指導要領に基づいた教科で育む力とつなげていく研修を実施することが必要であると考え。本年度の研究において、「めざす子ども像」から構想する授業づくりで気付きを得た教員の中には、子どもたちの力を高めるために授業をブラッシュアップするなど、実践に反映させた者もいた。しかし、多くの教員は気付きがありながらも、時間的な制約等によって実践にまで至らない状況にある。

来年度は、研修で得た気付きを実践につなげることができるよう、例えば研修の内容をより焦点化することや具体的な実践例を紹介すること、また、1時間の授業を構想する際に「めざす子ども像」を短時間で意識できるようなワークシートを作成することなど、一人でも多くの教員が実践につなげることができるよう取組を考えていきたい。

また、今年度は中学校社会科を例に研修を行ったが、他教科においても「めざす子ども像」から構想する授業づくりの要素を取り入れ、研修の汎用性についても検証していきたい。

謝辞

今回の研究におけるアンケート及びインタビュー調査に御協力いただいた教員の皆様、そして、本論文執筆にあたり、多大なる御協力、御指導、御助言を賜りました、吉水 裕也様（関西学院大学教育学部教授）に心より感謝申し上げます。

文献

中央教育審議会（2025）論点整理（令和7年9月25日）教育課程企画特別部会。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html

（2026年1月9日確認）

兵庫県教育委員会（2024）第4期 ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）（令和6年3月）。

<https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/kikaku/kihonkeikaku/>（2026年1月9日確認）

今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（2024）論点整理（令和6年9月18日）。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/184/mext_01892.html（2026年1月9日確認）

文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会科編。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm（2026年1月9日確認）